

鼻呼吸

睡眠時無呼吸症候群をとりまく病気

2011年12月

上顎拡大を積極的に行っている先生が新潟におりました。先日の患者会共催講演会に参加された小児歯科医のS先生（日本歯科大出身）です。

かつて筆者は、睡眠呼吸障害アップデートという本の座談会で「おしゃぶりは一部の歯科医は歯列が悪くなる（出っ歯になる）という否定的なキャンペーンを行ったが、実は鼻呼吸を上手にする利点もある」と述べました。おしゃぶりは口呼吸を防止するばかりではなく、上顎を拡大し、ひいては鼻腔も拡大する作用があるからなのですが、まさかこれがきっかけ、ではないでしょうが、それから間もなくして小児歯科医を中心におしゃぶり害悪説が再燃しました。

確かに、実に確かに、彼らのおっしゃる通り、おしゃぶりは歯列不正の原因です。ただ、「木を観て森を観ない」とか、「角を矯めて牛を殺す」とか、ひとつの欠点が事実であっても、それ以上の利点があれば、それを優先する、すなわちコラテラルダメージ（目的のための犠牲）という考え方も必要です。しかも、欠点とされる歯列不正は簡単な治療で解決します。むしろ歯列不正を恐れておしゃぶりの恩恵を受けなかった場合に、それによって起こるかもしれない睡眠時無呼吸症候群こそ、重大で怖いのです。

さて、前出のS先生ですが、ご自身も睡眠時無呼吸症候群に悩まされているせいか鼻呼吸の改善に関心が高く、ワイヤーで上顎拡大をするほか、舌の位置異常に対する治療も行っているとのこと。また頼もしい仲間が増えました。